

令和2年度事業報告

- 1 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で会員相互の交流の場であるネットワーク交流会をはじめ多くの計画が中止を余儀なくされた。

こうした中で、農研機構で開発された「超極細・高染色性シルク」の実用化に向け、「超極細・高染色性シルク」の実用レベルでの生産体制の構築や当該シルクの特性を活かした製品づくりについての取り組みについて、各分科会が連携して検討を行い、事業計画として取りまとめた。この事業計画は農林水産省の助成を得て令和3年度に実施することとなっている。

- 2 また、各分科会においては、次の取組みを行った。

- (1) PR分科会

協議会のホームページの作成を行った。(ホームページは令和3年5月から運用している。)

- (2) 蚕糸分科会

農林水産省が実施した若手養蚕農家の情報交換会に協力した。また、大日本蚕糸会の情報誌「シルクレポート」に当協議会を紹介する等養蚕関係者を対象に会員の増加に取り組んだ。

- (3) 新機能シルク分科会

「超極細・高染色性生糸」のビジネス化に向け、養蚕農家での飼育を可能とする第一種使用規程が大臣承認され、農家への技術支援や環境整備のため、国の茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業に応募した。新機能シルクとして新緑色と赤色の繭糸を生産するカイコ系統の開発を進めた。

- (4) 繊維分科会

会員間の交流、協業の模索を予定していたが実施出来なかった。次年度の事業予定を踏まえ事前開発として生糸のウオッシュャブル化、編み用ウオッシュャブル生糸、及びウィック基布用生糸の基礎開発を進めた。

- (5) 新用途分科会

分科会会員間の交流を目的とした集会を予定していたが、実施することができなかったため、令和3年度の実施について検討を行った。また、農林水産省「知の集積と活用の中場プラットフォーム」との連携強化を図ることを目的とし、会員の共通化のための仕組みづくりについて検討を開始した。